

平成 30 年 6 月 1 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26380183

研究課題名(和文) ポスト共産主義諸国の政治・行政・経済エリート：ロシアとウクライナ

研究課題名(英文) Political, Executive, and Economic Elites in Postcommunist Russia and Ukraine

研究代表者

大串 敦(Ogushi, Atsushi)

慶應義塾大学・法学部(三田)・准教授

研究者番号：20431348

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題の遂行に関しては、申請時に予想できなかったウクライナ危機が生じ、現地調査などの見直しを余儀なくされた。しかしながら、研究実施機関全体を通して、論文(一つの著書の二つの章も含む)を9本公刊することができ、国際学会報告も4回行った。政治・行政エリートのデータを収集し、ロシアの地方政治マシンの変容を考察したほか、ロシアの官僚エリートの分析も行った。さらに、ウクライナの地方エリートの動態に注目して、野党ブロック党の分析も行った。

研究成果の概要(英文)：Because this project was unexpectedly affected by the Ukrainian Crisis, the field work plan had to be changed. Nevertheless, nine articles (including chapters) have been published and four presentations were held with support of this project. Accumulating the date on political and executive elites in Russia and Ukraine, I have analyzed the changing nature of Russian regional political machines, the mixture of patrimonial and technocratic characteristics of Russian executive elites, as well as the changing coalition of the Ukrainian regional elites in its Eastern parts.

研究分野：ロシア・ウクライナ政治

キーワード：エリート ロシア ウクライナ 官僚 政治体制

1. 研究開始当初の背景

申請者は、本研究課題開始以前におおよそ次の三つを研究課題としてきた。

(1) ソ連の共産党体制の解体過程。ソ連時代の共産党改革が「権力の真空」を生み出したことを論じた。

(2) ロシアの政党政治・執行権力の相互関係。執行権力によるテコ入れによって成立した巨大与党の成立と動態を分析した。また、2000年代以降のロシア大統領の強いリーダーシップは強力な与党と大統領府の制度的資源が組み合わさったものであると論じた。

(3) ロシアから得た知見に基づき、旧ソ連諸国の比較政治研究をおこない、特にロシアとウクライナの政党政治を分析した。

これらの研究課題を統合・発展させ、旧ソ連諸国での集権的政治体制成立の謎を解くため、ロシアとウクライナに関して、政治エリート、大統領・大臣・次官と地方知事レベルまでの行政エリート、および彼らと密接なつながりを持つ経済エリートに関して分析を行うことを課題とした。

2. 研究の目的

本研究課題は、ロシアとウクライナを事例として、政治・行政・経済エリートを分析するものであった。このエリート分析を通して、旧共産主義諸国に特徴的な強い大統領権力が、セクショナリズムによって停滞に陥りがちな官僚機構に対応する、制度的要請であることを明らかにすることが目的であった。

より具体的には次の課題を設定した。

(1) 行政エリートに関して、次官の履歴データを分析し、ロシアやウクライナの官僚のキャリア・パタンを明らかにする。また、具体的な政策過程を追跡することで官僚機構のセクショナリズムを分析することを試みる。また、連邦構成主体首長の履歴データや首長交代記録を収集し、中央による地方統制の過程を分析する。

(2) 政治エリートに関して、ロシアとウクライナの与党（統一ロシアとウクライナの地域党）の制度化の程度と、与党の定着による政治過程への影響を分析する。

(3) 経済エリートと他分野のエリートとの相互浸透を調査し、政治・行政エリートが経済からどのような影響を受けていると想定できるのかを分析する。

(4) 以上の分析を総合し、不効率でセクショナリズムが強いとされる旧ソ連諸国の官僚制は、実は深く社会に浸透している動員力の強い官僚制であり、それゆえセクショナリズムが強くなり、大統領に代表される強い意思決定機関の必要もそこから出ているとの仮説を検討することを課題とした。

3. 研究の方法

本助成によって、当初想定した方法は、履歴データの体系的収集と複数の地方を含めた現地調査であった。ところが、研究申請時

に予想できなかったウクライナ危機とドンバス地方での戦争により、当初想定したウクライナの地方都市（特にドンバス地方）でのフィールドワークが困難になった。また、ウクライナ危機により、地域党が瓦解したため、地域党の制度化を検討する余地がなくなった。そこで、当初案から修正し、実施した研究の具体的方法は以下の通りであった。

(1) 行政エリートに関しては、ロシア全省庁の次官の履歴データを体系的に収集した。そこでリクルートメントの方式が、若い時から採用されて、その省庁内で昇進する閉鎖型任用制か、一般社会での経験を経て、上級官僚に採用される開放型任用制か判別する。また、次官に昇進するまでに省庁間異動を経験しているか、次官昇進時の年齢にばらつきがあるか、などを分析し、家産制的としばしばいわれるロシアの官僚制の実態を明らかにすることを試みた。

(2) 政治エリートに関しては、ロシアとウクライナで事情が異なる。ウクライナでは、地域党の崩壊に伴い、与党研究に大きな修正を余儀なくされた。そこで、ウクライナ危機以前の地域党体制の分析を行うと同時に、地域党の後継政党である野党ブロックに焦点を絞り、中核地方での地方エリートの糾合に成功しているかどうかをフィールドワークによって実態解明することを試みた。ロシアに関しては、2016年9月に下院選挙、2018年3月大統領選挙があったので、選挙監視の経験を活かし、統一ロシア党がどのような選挙戦を行ったのかを中心に分析することを試みた。

(3) 経済エリートに関しては、研究代表者はこれまで経済エリートを研究した経験がなかったために、すでに実績のある研究者から知見を集めることから始める必要性が感じられ、こうした研究者との共同の研究会の組織を構想した。

(4) これらの研究成果は、英語と日本語により発信し、国際的に周知されることを目指した。

4. 研究成果

「研究の方法」欄で記載したとおり、本研究課題の遂行に関しては、申請時に予想できなかったウクライナ危機が生じ、現地調査などの見直しを余儀なくされた。しかしながら、研究実施期間全体を通して、論文（一つの著書の章2つも含む）を9本公刊することができ、国際学会報告も4回行った。本研究により得られた成果は、以下の点にまとめることができる。第一に、ロシアの官僚制は一般に言われているほど全面的に家産的ではなく、高度に専門化されている側面もある。この専門化が、強固なセクショナリズムを生み、統合のために強いリーダーシップを大統領が行う必要が出てくる。第二に、ウクライナの与党であった地域党は、地方エリートを包摂することによって勢力を拡大していた

が、野党ブロックは現在地方エリートの糾合に失敗しており、執行権力の支えのない恩顧政党である野党ブロックには、明るい展望を描きにくい状況にある。以下「研究の方法」欄での項目に合わせて、具体的に述べる。

(1) ロシアの大臣と次官の履歴を体系的に収集し、以下のことを明らかにした。高度に専門化されたキャリア・パターンを持つ省庁(外務省など)と、属人的な要因で昇進していると思われる省庁(スポーツ・観光省など)があること、彼らの昇進は新大臣に任命と関係ある場合もあるが、常にそう言えるわけではなく、誰が大臣であるかにかかわらず、当該省を機能させるために必要な能力を持つと想定される次官が存在していること、こうした専門化された官僚機構自体が、セクショナリズムの温床になっていること、大統領の強い権限はこのセクショナリズムに対処するための制度的要請でもあること。この問題に関しては、2018年2月に国際ワークショップで報告し、世界的な著名なロシア研究者から好評を得たうえ、ワークショップ以前のワーキングペーパーは、Rutland (2018)によって言及された。

(2) ロシアの与党に関しては、2016年下院、2018年大統領選挙の観察に基づき、以下の点を明らかにした。2016年下院選挙での統一ロシア党の圧勝にもかかわらず、選挙戦において、党がプーチン大統領との結びつきを強調していなかったこと、これは党側ではなく、プーチン側からの意向である可能性が高いこと、さらに、2018年の大統領選挙でもプーチンは統一ロシア党からの候補者ではなく、独立系候補者として出馬したこと、などの点から、プーチン大統領は、一般に腐敗しているとみなされがちな政党政治から距離を置き始めている。さらに、近年の地方知事の頻繁な更迭や逮捕(地方知事についてもソ連解体期からデータを体系的に収集した)から、プーチン体制は、中位エリートに厳しい対応をすることで、全国的な支持を調達するポピュリスト体制へ移行しつつあると論じた。この内容はアメリカとイギリスの学会で報告したうえで、イギリスの査読誌に掲載された。

ウクライナに関しては、ウクライナ危機以前のウクライナ政治が地方閥の求心的競合によって特徴づけられることを主張し、査読誌に掲載された。その後、ドネツクという中核地域を失った地方閥政党である野党ブロックに焦点を当て、ハリコフ州とドニプロペトロフシク州で、現地エリートの糾合に野党ブロックが失敗していることを明らかにした。これはアメリカの学会で報告し、現在投稿中である。

(3) 経済エリートに関しては、国際ワークショップにてRutlandや新進気鋭の研究者Melnykovskaから知見を収集するにとどまった。今後継続して調査していきたい。

なお、本研究課題から派生して、ソ連の共産党体制解体過程に関して、論文を執筆したが、これは本研究課題の史的基礎を形成するものである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 7 件)

大串敦「重層的マシーン政治からポピュリスト体制への変容か：ロシアにおける権威主義体制の成立と展開」川中豪編『後退する民主主義・強化される権威主義 最良の政治制度とは何か』ミネルヴァ書房、2018年近刊予定。査読有

Atsushi Ogushi, 'Weakened Machine Politics and the Consolidation of a Populist Regime? Contextualization of the 2016 Duma Election' *Russian Politics*, Vol. 2 No. 3 (2017), pp. 287-306. 査読有

DOI: 10.1163/2451-8921-00203002

大串敦「ペレストロイカと共産党体制の終焉」松戸清裕、浅岡善治、池田嘉郎、宇山智彦、中嶋毅、松井康浩編『ロシア革命とソ連の世紀・第三巻・冷戦と平和共存』岩波書店、2017年、171-195頁。査読無

大串敦「ロシアにおける混合体制の成立と変容」川中豪編『発展途上国における民主主義の危機』(アジア経済研究所調査研究報告集)アジア経済研究所、2016年、89-102頁。査読無

Atsushi Ogushi, 'Executive Control over Parliament and Law-Making in Russia: The Case of the Budget Bills', 『法学研究』第89巻第3号(2016年)、292(61)-276(77)頁。査読無

http://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-20160328-0276

大串敦「ウクライナの求心的多頭競合体制」『地域研究』16巻1号、2015年、46-61頁。査読有

Atsushi Ogushi and Yuko Adachi, 'The Power and Limitations of Dominant Party Control: United Russia, the Chinese Communist Party, and the Indian Congress from a Comparative Perspective', in Shinichiro Tabata ed., *Eurasia's Regional Powers Compared: China, India, Russia* (Abingdon: Routledge, 2015), pp. 67-84. 査読無

[学会発表](計 4 件)

Atsushi Ogushi, 'The Opposition Bloc: A Clientelistic Party with Fewer Administrative Resources', paper

presented to the 49th annual ASEES (Association for Slavic, East European, and Eurasian Studies) convention, Chicago, 2018.

Atsushi Ogushi, 'Populism or Machine Politics? Contextualisation of the 2016 Duma Election' paper presented to the Annual BASEES (British Association for Slavonic and East European Studies) conference, Cambridge, 2017.

Atsushi Ogushi, 'Weakened Machine Politics and the Consolidation of a Populist Regime? Russian Politics after the Ukrainian Crisis', paper presented to the 48th annual ASEES (Association for Slavic, East European, and Eurasian Studies) convention, Washington DC, 2016.

Atsushi Ogushi, 'Bureaucratic Elites in Russia Revisited: Modernity and Partimonialism' paper presented to the IX ICCEES world congress, Makuhari, Japan, 2015.

〔図書〕(計 1 件)

横手慎二(編) 大串敦、中馬瑞貴『ロシアの政治と外交』放送大学出版会、2015年、225(38-51、52-63)頁。査読無

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
国際ワークショップ組織・報告
Political and Economic Elites in Russia and Ukraine in Comparative Perspective、16 February 2018, Aleksanteri Institute, University of Helsinki.
<http://www.helsinki.fi/aleksanteri/engl>

ish/news/events/2018/elites-in-Russia-and-Ukraine.html

6. 研究組織

(1)研究代表者

大串 敦(OGUSHI, Astushi)
慶應義塾大学・法学部・准教授
研究者番号：20431348

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし

(4)研究協力者

なし